

外国語教育メディア学会 (LET)
第 91 回 (2018 年度春季)
中部支部研究大会

プログラム

日時 2018 年 5 月 26 日 (土) 9:30-17:00

会場 愛知学院大学 日進キャンパス 2 号館
〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12
Tel: 0561-73-1111

研究大会実行委員長 川口 勇作 (愛知学院大学)

主催 外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部
後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会



問い合わせ先

外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部事務局
支部サイト (<https://www.letchubu.net>) の

「お問い合わせと原稿送信」からお問い合わせください

Twitter: @LETChubu



研究大会サイト : <http://bit.ly/LETG2018Spring>

日 程

9:30 受付 【2階 ホール】
9:30 展示 【2階 ホール】

10:00－10:10 開会式 【2207 教室】

司会： 川口 勇作（愛知学院大学）
主催者挨拶： 高橋 美由紀（中部支部支部長）
開催校挨拶： 河野 敏宏（愛知学院大学 教養部長）

10:15－11:40 講演 【2207 教室】

「語彙学習の自律と継続を支援する ICT 活用：ウェブとアプリの連携」

講師：田中 洋也 先生（北海学園大学）

司会・講師紹介：川口 勇作（愛知学院大学）

本講演は、講師がこれまで開発に携わったウェブ・アプリケーション Lexinote、スマートフォン・アプリ DoraCAT を用いた学習を参加者が実際に体験することで ICT を用いた英語語彙学習支援について考える機会としたい。

Lexinote は、教師が提示する課題と学習者の自主的な学習を通して学習記録を蓄積、可視化することで自律的・継続的な語彙学習の支援を目指したウェブ・アプリケーションである。DoraCAT は、実用英語技能検定 5 級から 1 級までの計 7,120 語を用いて学習者が自身の語彙知識レベルを診断し、学習目標語の選択とリハーサルを行うことで学習者個人にカスタマイズした語彙学習の支援を目指すスマートフォン・アプリである。両システムは、個人の学習記録を共有することで統合的な語彙学習支援を可能にしている。

講演では、両システムと同じく講師が制作した定型表現学習アニメーション教材を用いた学習体験を通して、学習環境に合わせた ICT 活用による学習支援方法について議論したい。

11:40－12:40 昼食 【2階ホール】

展示等ゆっくりご覧下さい。

12:40－13:00 総会 【2207 教室】

13:10－14:50 研究発表・実践報告

(1)13:10－13:40 (2)13:45－14:15 (3)14:20－14:50

第 1 室（2206 教室） 司会： 工藤 泰三（名古屋学院大学）

(1) 小学校における効果的な英語ライティング活動に関する検討：

自分の考えや思いを英語で書いて伝える力の育成を目指して 【研究発表】
辻 香代（京都大学大学院生）

(2) Round-robin Presentations and Computer-Mediated Peer Assessment 【実践報告】

バーンズ ライアン（名古屋学院大学）

(3) アニメーションを活用した文法学習教材の提案 【実践報告】

近藤 泰城（三重県立桑名工業高等学校）

第2室 (2203 教室) 司会： 中川 右也 (鈴鹿高等学校)

- (1) ニュージーランド手話の句と複合語の表現に関する分析 【研究発表】
鈴木 薫 (名古屋学芸大学)
- (2) 普通教室での授業支援システム活用を可能にする Orchestration System の開発
【研究発表】
中川 右也 (鈴鹿高等学校)
- (3) 外国語教育へ繋げる外国語活動の文字指導：
Developing phonological awareness に焦点をあてて 【研究発表】
高橋 美由紀 (愛知教育大学)

15:00-17:00 シンポジウム 【2207 教室】

「これからのプロジェクト型学習：主体的・対話的な深い学びを目指して」

司会・コーディネーター：小島 ますみ (岐阜市立女子短期大学)

シンポジスト

石井 雄隆 先生 (早稲田大学)

「プロジェクト型学習とアクティブラーニング：近年の動向と組織的な取り組み」

プロジェクト型学習とアクティブラーニングは近年盛んに推進されており、早稲田大学においても、対話型、問題発見・解決型教育を推進している。本発表では近年の動向と早稲田大学における取り組みについて紹介する。

藤田 卓郎 先生 (福井工業高等専門学校)

「プロジェクト型学習を充実させるために必要だと感じていること：これまでの実践の振り返りから」

中学校、高等学校、工業高等専門学校で行ってきている3つの実践を紹介する。そして、実践を振り返りながら、プロジェクト型学習を進める中で、理解したこと、直面した問題点とその対処法、プロジェクト型学習を充実させるために必要だと感じたことについて述べる。本発表から、活発な議論のきっかけを作りたい。

天野 修一 先生 (広島大学)

「教養教育英語におけるプロジェクト型ライティング指導の実践」

国立大学の教養教育における選択必修科目として開講された、プロジェクト型英語ライティング授業の実践報告を行う。前年度の実践における課題と今回の実践での変更点を中心に、詳細に具体的に報告する。

江利川 春雄 先生 (和歌山大学)

「教育政策と協同学習からみたプロジェクト型学習の課題」

「英語で授業」や小学校英語教科化の強制など、教師の主体性を尊重せず、対話的でない行政・政策をどうするか。上から「主体的に！」と言われたので主体的授業を模索し始める教員・研究者の「没主体性」をどうするか。

17:30-19:30 懇親会 愛知学院大学 学院会館
愛知県日進市岩崎町阿良池 12 (会場建物より徒歩 5 分)
司会： 福田 純也 (静岡大学)
開催校挨拶： 川口 勇作 (愛知学院大学)

発表概要

第1室 (2206 教室)

発表1 小学校における効果的な英語ライティング活動に関する検討:

自分の考えや思いを英語で書いて伝える力の育成を目指して 【研究発表】
辻 香代 (京都大学大学院生)

本研究は、書面でのコミュニケーション能力の育成を新目標とした小学校英語教育に示唆を与えるため、書く活動に関する国内外の先行研究における実践例を考察し、小学校での効果的な英語ライティング活動を検討した。具体的には (1) 書く活動の利益を享受するための留意点、(2) 英語で書いて伝える力の育成に貢献する活動の内容や方法の観点から調査を行った。結果、英語活動における早期段階より四技能の育成を意識し、学習者のアルファベット認識や文字の練習、十分な量の語彙習得を目指した指導の重要性や動詞の語彙を十分に与える必要性が示され、これらの基礎的知識を導入したうえで「書くこと」への移行が効果的であることが示された。また、英文構成 (Who does what to whom, when, where, how and why) の段階的指導の導入やゲーム要素を取り入れた協働的ライティング活動が有益であることが明らかとなった。これらの論点を踏まえた活動は、小学校英語教育における「書いて伝える力」の向上に貢献すると考えられる。

発表2 Round-robin Presentations and Computer-Mediated Peer Assessment 【実践報告】

バーンズ ライアン (名古屋学院大学)

Giving presentations is an important skill in language learning. However, the standard practice of having one student after another present in front of the class can increase anxiety for the presenter and disengage classmates. This presentation will look at an effective way to implement round-robin small group presentation configurations utilizing the Social Golfer Problem (Triska, 2008). This method gives students opportunities to both evaluate presentations and to speak multiple times in a low-anxiety environment.

The presenter will discuss a short computer program (Barnes, 2018) that collects, collates, and distributes peer evaluations, score averages, and the teacher's assessment.

In this presenter's experience, students have responded positively with less anxiety and are able to receive more feedback—not just from the teacher, but also from classmates. The combination of anonymous feedback along with averaged scores has reduced the effect of peer bias and very closely matched the teacher's score.

発表3 アニメーションを活用した文法学習教材の提案

【実践報告】

近藤 泰城 (三重県立桑名工業高等学校)

インターネットの動画配信サイトには、英文法指導の動画が掲載されているが、多くは解説者が黒板やホワイトボードの前に立ち、書き込みながら解説している講義形態である。動画という媒体の性質を考えると、イラストやアニメーションを用いて、英文法のイメージを視覚的に伝えることが可能であり、又より効果的であると考えられ

る。そこで、文法項目を視覚的にイメージ化させるアニメーションを用いた教材を作成した。教材には、学習者には理解が困難であるとする "no more A than B" を使った「くじら構文」と呼ばれる文法項目を取り上げた。今井 (2012) は「クジラの魚度合い」という言葉によって分かりやすく解説しており、その概念をアニメーションによって表現し、ナレーションを加えた。家庭学習など自学自習の場面での利用を想定し、分かりやすさを心掛けた。比較表現は同じ形の二つの文から出来ていること、no の概念、そして、a fish の前になぜ more が置かれるのかという点の理解に特に留意した。

第2室 (2203 教室)

発表1 ニュージーランド手話の句と複合語の表現に関する分析 【研究発表】
鈴木 薫 (名古屋学芸大学)

ニュージーランド手話の句と複合語の表現に関して、ニュージーランド北島のオークランドにある Kelston Deaf Education Centre (KDEC) の手話教育スタッフを対象として収集したデータを提示する。共通する特徴や個人差を明らかにし、先行研究で分析しているアメリカ手話や日本手話と比較する。ニュージーランド手話もアメリカ手話と同様に英語をベースにしているため、十分に英語が獲得できていないと手話の使用にも困難が生じる。よって、英語音声との相違点に着目することによって、英語学習に与える影響を見出す。先行研究で報告されている聴覚障害者を対象とした句と複合語の音声認識の調査結果から、言語学習における音韻の形成や処理に関わる問題点を明らかにする。オークランド市内にある Ormiston Primary School で取材した授業の様子を紹介し、聴覚特別支援教育の今後の動向について模索する。

発表2 普通教室での授業支援システム活用を可能にする Orchestration System の開発 【研究発表】
中川 右也 (鈴鹿高等学校)

本発表では、共同研究・開発を行っている授業支援システム“クラスルームコマンダー”を使った授業の一例を示したい。クラスルームコマンダーは Miracast を使って、教師用タブレット1台に対し最大49台までのタブレットを繋ぐことができ、その端末画面を教師用タブレットにサブネイル表示あるいは教室のスクリーンなどに投写できることから、従来の CALL を簡易化したものとして機能する。また、Wi-Fi 接続が不要なため、セキュリティーを心配することがなく、BYOD を導入することが容易となる。さらに、アダプター機器が携帯できることから、どの普通教室であっても PC を使った授業の環境を整えることができる。Collins and Halverson (2009) では、テクノロジーに関して学校教育の大きな障害となるものとしてコストを挙げているが、クラスルームコマンダーは機能を限定しているため安価であり、こうした問題を抱えることもない。発表では、中央教育審議会において施策化されて以降、教育現場において浸透しつつあるアクティブラーニング型授業を基に、クラスルームコマンダーを使った学習への深いアプローチに至る具体的な活動を紹介したい。

発表3 外国語教育へ繋げる外国語活動の文字指導：

Developing phonological awareness に焦点をあてて 【研究発表】

高橋 美由紀 (愛知教育大学)

Phonological awareness は、個々の音を区別する能力であり、音を文字にマッピングするための基礎となり、母語教育では絵本の読み聞かせや文字遊びを通して子ども達の文字指導に効果的であるとされている (Waugh & Jolliffe, 2008, p. 62)。一方、外国語活動における文字指導は、「高学年の外国語科(2)「読むこと」ア「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」ことにつながるものである」と示されている (文部科学省 2017, p. 16-17)。

本発表では、外国語活動から外国語教育へ系統性を持たせた文字指導のあり方を Phonological awareness の視点から考察し、『Let's Try!』『We Can!』のデジタル教材を利用した具体的な活動を示す。

はじめに、Phonological awareness の Listening, Rhyme, Words, Syllables, Phonemes の各ステップの視点を述べ、次に『Let's Try!』『We Can!』のデジタル教材について各ステップの視点から分析する。さらに、昨年度の小学校の事例から、視聴覚教材や体験的な学習を通して行なわれた「リスニング活動から文字指導へつなげる活動」や「I Spy」「ことば遊びゲーム」などのゲームを活用した文字指導を紹介し、中学年から高学年へつなぐ文字指導のあり方を示す。

賛助会員展示

チエル株式会社	http://www.chieru.co.jp
株式会社エル・インターフェース	http://www.supereigo.com
リアリーイングリッシュ株式会社	https://www.reallyenglish.co.jp
株式会社教育測定研究所	http://www.jiem.co.jp

昼食

当日、食堂は営業しておりません。学内ではコンビニが、会場周辺にはコンビニ、飲食店が数店舗営業しておりますが、会場の建物からは離れておりますので、昼食をご持参されることをお勧めします。飲料の自販機は会場 (2号館) の南側にあります。

懇親会

- 時間： 17:30～19:30
- 参加費：一般会員 3,000 円、学生会員 2,000 円 (飲み物代含む)
- 場所： 愛知学院大学 学院会館 (支部大会 会場内)
- 参加されます方は、以下 URL (もしくは右下 QR コード) の予約フォームより、5月16日(水)までにお申し込みください。
http://bit.ly/LETC2018S_party
- 当日参加につきましては受付でご確認ください。
- 懇親会にご参加されます方は、2階受付へお集まりください。
- 懇親会終了後に、藤が丘駅に向かう方は 19時50分発の路線バス、栄駅・名古屋駅に直接向かう方は 19時40分発の高速バス(最終便) をご利用いただけます。いずれも大学バスターミナルからの発車です。



その他の情報

荷物置き及び控え室は2階2202教室です。スーツケース等置いていただいて構いませんが、施錠・管理はされませんので、必ず貴重品はお持ちになしてください。

大会会場アクセス

お車でご来場されます場合は、会場キャンパス地図にありますように、正門左手の学生用駐車場をご利用ください。

公共交通機関をご利用の場合は、以下の各駅・施設から、会場校行きのバスが出ております。以下のバスのダイヤは下記のページでご覧いただけます。右のQRコードよりアクセスできます。

<http://www.agu.ac.jp/bus/index.html>



名鉄バス

- 地下鉄東山線・藤が丘駅（1番のりば）⇒愛知学院大学前（運賃：250円）
- リニモ・長久手古戦場駅（2番のりば）⇒竹の山一丁目（運賃：170円）
- 地下鉄鶴舞線・赤池駅（3番のりば）⇒竹の山一丁目（運賃：470円）

名鉄高速バス（運賃：550円）

- 名鉄バスセンター（JR/名鉄/近鉄/地下鉄・名古屋駅隣接、24番のりば）⇒愛知学院大学前
- オアシス21（地下鉄・栄駅隣接、9番のりば）⇒愛知学院大学前

シャトルバス

- リニモ・長久手古戦場駅⇒愛知学院大学（運賃：200円）

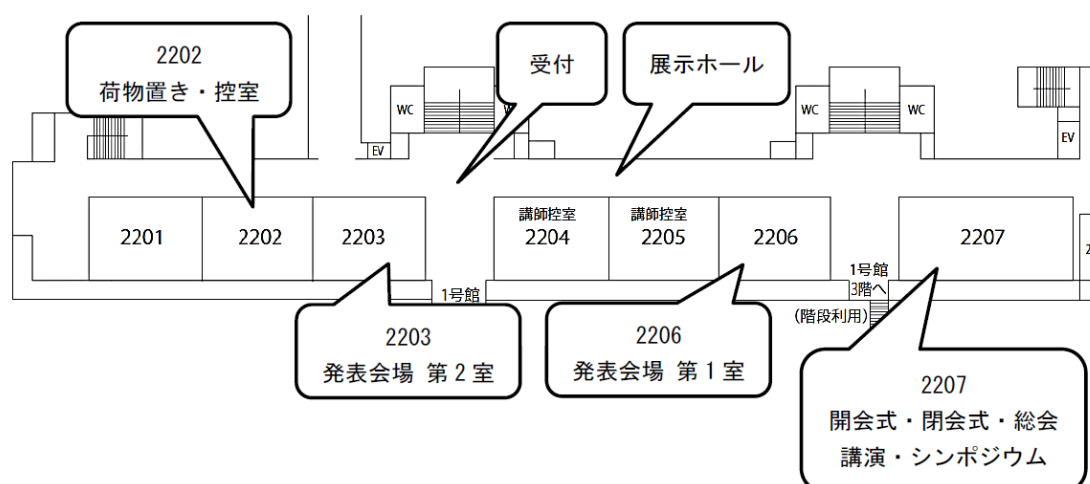
各駅からの所要時間の目安は以下のとおりです。

<http://www.agu.ac.jp/access/nissin/>

会場キャンパス地図



会場建物内地図（2階）



大会参加のご案内

- 会員の方の参加は無料です（ご参加までに、年会費をご納入ください）。
- 非会員の方は当日会員参加費 1,000 円を受付にてお払いください。

新規ご入会案内

LET 会員として入会手続きをしていただきますと、当日会員参加費分の金額が、年会費から割引されます。会員になられますと、LET 全国研究大会、支部研究大会（年 2 回）での研究発表、実践報告、紀要への投稿などをしていただくことができます。

- 当日会員参加費として 1,000 円をお支払い下さい。
- LET 本部サイトにて入会登録をしてください（仮会員）。
- 仮会員になられましたら、後日、年会費をご請求申し上げます（お支払いいただいた当日会員参加費 1,000 円を割引きます）。
- 年会費をお支払いいただきますと、正会員になります（3 ヶ月以内にお手続きをお願いします）。

会員登録、会員情報の更新はこちらから

LET 本部サイト：<https://www.j-let.org/>